

愛知 まちなみ 建築賞

表彰作品集 2023

良いまちなみに、
感情が映えた。

通りたいまちなみが、ことしも増えました。

ART DIRECTION+DESIGN 高柳 新・いとう かいり (CAMP inc.) ILLUSTRATION いとう かいり (CAMP inc.)

主催

愛知県

後援

愛知県市長会
愛知県町村会
愛知県商工会議所連合会
中部経済同友会
愛知県都市計画協会
中部デザイン協会

協賛

(公社)愛知建築士会
(公社)愛知県建築士事務所協会
(公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会
(一社)愛知県建設業協会
(一財)東海建築文化センター
愛知県建築技術研究会

愛知まちなみ建築賞について



愛知県知事

大村秀章

| Hideaki Ohmura

「愛知まちなみ建築賞」は、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与するなど、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる「建築物」又は「まちなみ」を表彰することにより、「建築物」及び「まちなみ」のまちづくりに果たす意義や役割を啓発し、もって魅力と潤いのある地域環境の形成に資することを目的として、1993年度に創設し、今年度で第31回を迎えました。

今回は45作品の応募をいただき、建築、都市計画、デザインの専門家、行政で構成する選考委員会において厳正かつ公平な審査が行われ、愛知まちなみ建築賞として7作品を表彰することとしました。

今回の受賞作品は「周囲との親和性に配慮した個性的で格式の高いホテルとブライダルの複合施設」「近隣住民へ開放した庭を持ち、自然の恵みを享受できる住宅」「自然の生命力や自然に包まれる心地よさを体感できる診療所」「地域の人々も散策できる庭を設けることで医療と地域の新しいつながりを実現した病院」「歴史ある伽藍を承継しつつ地域の活性化に貢献する寺院」「建物の中と外の賑わいをつなげるために段状のテラスが設けられた小学校」「近隣住民との関係を結ぶ場として外廊下が設けられた

陶芸アトリエを持つ家」となっており、いずれも各地の環境に調和しながら、新しい景観を生み出している個性豊かなものでした。

受賞した7作品は、地域の方々から親しまれ、愛される存在となっていくことは勿論のこと、魅力ある景観づくりの好事例として本県の良好な景観形成の推進に大いに貢献されることを期待しています。

最後になりますが、広くご関心を寄せていただいた県民の皆様をはじめ、熱心に審査していただいた選考委員の皆様、温かいご支援をいただきました後援・協賛団体の方々へ深く感謝申し上げます。これからも、魅力的な景観の形成を促進し、愛着と誇りが持てる豊かな県土の形成と、魅力ある地域づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

総評

昨年の総評で、まちなみを「コール・アンド・レスポンス」として捉えてみると面白いと書いたが、まさにその視点で研究を進めることになった。昨年の30周年を一つの区切りとして、これまでの受賞作品が、現在どのような状況にあり、周囲の街並みへの影響は生じただろうか、という視点で名古屋市立大学芸術工学部の4年生1名が卒業研究として調査を行った。その結果、同じ形のタウンハウスが並ぶまちなみでの住まい手による増築の形式が、周囲の住宅の増築の先駆けとなった第1回の「倉沢邸」。名古屋市の東西を結ぶ幹線道路（八熊通）に作られたガラスのカーテンウォールが、カーディーラーが並ぶこの一帯特有の景観形成を導いたと考えられる第8回の「JAF中部本部」。木材による外壁表現が、周囲の住宅地に広がりつつある第27回の「あそのびハウス」などが、その後のまちなみ形成に影響を与えた作品と言えることが分かった。もちろん、有松や犬山、半田の優れた歴史的街並みや、自然景観に調和させる作品、客観的に把握できる周辺との関係を超えた新しい建築形態を提案する作品も多く、これらにも大きな価値がある。一方で、上記の、まちなみ建築の何らかの形式が周囲に伝播したような作品は、長い時間を経て改めて評価しうるものであり、今後もこうした事後評価が必要かと思う。

今回の受賞事例の中で、今後のまちなみ形成を長期的に牽引し得る優れた作品をいくつか取り上げる。「TIAD」は、開放的で緑に溢れた半外部空間が低層部に立体的にデザインされ、前面の久屋大通公園の緑を見下ろす視点場を提供しており、近年高層化による再開発が進む栄地区の中でも特に優れた事例と言えるのではないか。今後の高層開発の際には参照される作品となることが期待される。「廊下とアトリエ」は郊外住宅地の前面道路側に駐車場やガレージが並ぶまちなみの中で、玄関までのアプローチと一体的な

アトリエを増築する提案であり、今後の住宅地景観に人のつながりを生み出しうる新たな形式を与えた良作であった。「笠覆寺（笠寺観音）」は、本堂を名古屋市指定文化財にすることで、江戸時代の姿に近づける大規模修復と、渡り廊下や回遊性あるスロープの設置を可能にした力作であり、全国の老朽化する寺院改修のモデル事例として意義のあるものと言える。「49×16×3の森（野田歯科クリニック）」「豊田市地域医療センター」は、規模は違うが共に十分な緑化とその間を縫う歩行動線が作られ、建築内外をつなぐ快適な診療・療養環境を実現していた。地域の医療施設として住宅地に豊かな緑を提供しただけでなく、緑の歩行空間の連担などの形で、今後のまちなみ形成に影響を与えることが期待される。また上記のいずれも、外観としてのまちなみだけでなく、内外空間のつながりを生み出し、建築デザインとしても質が高く、提案性もある事例である。

最後に、応募と審査の過程を紹介する。今年は例年より少ない計45点の応募作品の中から、各審査員の投票結果をもとにした議論により、一次通過17作品が選出された。応募者側が製作した二次審査用の動画や詳細な資料をもとに7点の受賞を決定したが、一次の上位通過作品が必ずしも受賞には至らず、下位で通過した複数の作品が受賞するなど、受賞7点を選ぶ段階は激戦だった。惜しくも受賞に至らなかったものも含め、全ての応募者に対して審査員を代表して御礼するとともに、来年はさらに応募数が増えることを期待したい。



名古屋市立大学 教授

太幡英亮

| Eisuke Tabata

受賞作品

- 01 TIAD, Autograph Collection [名古屋市中区栄]
- 02 廻庭の棲家 [岡崎市柱町]
- 03 49×16×3の森（野田歯科クリニック） [豊橋市東小鷹野]
- 04 豊田地域医療センター [豊田市西山町]
- 05 笠覆寺（笠寺観音） [名古屋市南区笠寺町]
- 06 廊下とアトリエ [安城市赤松町]
- 07 小牧市立小牧南小学校 [小牧市若草町]



練り込み技法による記念銘板

作／陶芸家 水野教雄

TIAD, Autograph Collection

ていあどおーとぐらふこれくしょん



良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、募集条件に適合しているものうち、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

選考基準

1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 新しいまちなみの形成を先導し、モデルとなるもの。
- デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
- 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。

2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。

(以下例示)

- 地場産品を活用する等、地域の風土を生かし、地域文化の継承に寄与しているもの。
- まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
- 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。

3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
- 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
- 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。

4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

選考経過

応募対象	愛知県内で、2018年4月1日から2023年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準のいずれかに該当するもの。
応募期間	2023年7月1日から2023年8月20日まで
応募総数	45作品
第1回選考委員会	2023年8月31日 一次選考を行い、17作品を二次選考対象とした
第2回選考委員会	2023年11月7日 二次選考を行い、7作品を決定した
表彰式	2024年2月9日

選考委員 (順不同/敬称略/★は委員長)

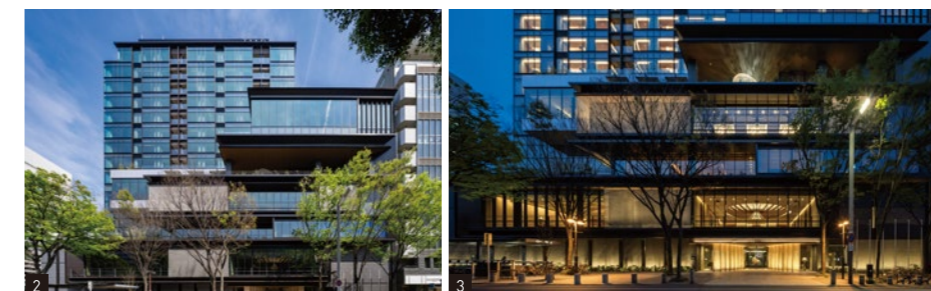
谷田真	名城大学 准教授
★ 太幡英亮	名古屋市立大学 教授
夏目欣昇	名古屋工業大学 准教授
船橋仁奈	大同大学 准教授
溝口周子	名古屋造形大学 教授
向口武志	名古屋市立大学大学院 准教授
濱田修	公益社団法人愛知建築士会 会長
安藤春久	公益社団法人愛知県建築士事務所協会 会長
森 哲哉	公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会 地域会長
嶺嶺知行	愛知県 建築局長
坂田一亮	愛知県 都市・交通局長

愛知県と名古屋市による「高級ホテル立地促進」補助事業第1号建物。この建物が面する久屋大通は、震災復興計画「大中京再建の構想」により整えられた壮大なスケール/思いが込められたシンボル空間であり、その南エリアは、地上はイベントができる公園、地下は駐車場、西側にはデパート、東側には主にオフィスが並び、くすのき・ケヤキの高木が緑陰をもたらす、という明快な骨格を有する。一方で、整備から時を経て魅力が相対的に減じた状況にある。そうした中、この建物が提示したまちなみ・建築のインパクトは大きい。デザインコンセプトの「BIOPHILIA NEST」に基づき、高層部は大通から後退させて前方を低層から中層までの段々とする量塊の構成、量塊を際立たせる分節・

凹凸による豊かな表情、中層のルーフトップ・客室バルコニー・東側の低層壁面に纏う周囲にも見せるヒューマンスケールの植栽等の工夫は、建物と周囲を立体的に噛み合わせ、まちと人と自然が融和する居場所を導引している。現在、国が推進する「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の実現に向けて、特にこのエリアには固有かつ新たな境界性の創出が期待されている。この建物が形成する中心性と周縁性の共存にはその生成手法としての可能性を感じる。

● 夏目欣昇 Yoshinori Natsume

建築主	株式会社日本セレモニー
設計者	清水建設
施工者	清水建設
概要	主要用途 ホテル・集会場
構造	鉄骨造 一部 鉄筋コンクリート造
階数	地下1階・地上14階
敷地面積	2,350.17㎡
建築面積	2,111.28㎡
延床面積	21,552.40㎡



1,2,3 photo/株式会社エスエス 名古屋支店 (2023)

01

廻庭の棲家

まわりにわのすみか

岡崎市柱町



建築主 T氏
 設計者 TSCアーキテクト/田中 義彰
 施工者 株式会社戸田工務店
 概要 主要用途 一戸建ての住宅
 構造 木造
 階数 地上2階
 敷地面積 844.55㎡
 建築面積 274.49㎡
 延床面積 256.52㎡

多様な庭を創出する為、温熱環境に有利となるなどの設計主旨からの建築計画は、道路面に対し真北方向へ回転させた配置により広い庭が創出された。更に、奥行きを深くする平面計画により大小複数の庭が設けられた。屋根は切妻と寄棟により構成され幾層にも重なり合い、庭と調和しながら地域に落ち着きを与えているようである。また、得られた親緑空間は個人で占有することなく地域住民に広く開放され共有されている。道を行き交う人々が鳥のさえずりや井戸を利用したせせらぎからの流水音に耳を澄ませるなど、四季折々を五感で感じ享受できる事が

地方都市ですら得られることは多くはないことから、いかに地域に対し開く想いが重要であるかを地域に投げかけているのではないかと思う。建築家の思想や技術と何よりも施主の深い想いと理解により優れた建築ができるのであるという事を体現している。地域のまちなみに調和した良好な景観形成に寄与するという趣旨であるまちなみ建築賞にふさわしい作品である。

●濱田 修 Osamu Hamada



1,2,3 photo/ToLoLo studio (2023)

49×16×3の森(野田歯科クリニック)

豊橋市東小鷹野

よんじゅうきゅうかけるじゅうろくかけるさんのもり(のだしかくりにつく)



この施設の名称が「49×16×3の森」とあるように、敷地の東西方向が49m、南北方向が16mの敷地で、高低差が3mからなる敷地形状を考慮した施設計画と、既存樹木を生かしながら、訪れる患者さんの癒しの空間となるように計画された施設である。

まず、「まちなみ」という点では既存樹木を残し、その間に複数の屋根が重なり合うような雰囲気を出しつつ建物が建てられ、周辺との調和も考慮し全体計画がされている。

建物へのアプローチについては、高低差の中間地点を建物へのアプローチレベルとすることで、既存の樹木の緑を見ながら北に寄せられたスロープを歩き、高低差を生かした浮遊

感のある待合も見ながら建物にアプローチする事で、高低差を軽減している事も評価できる。

また、内部計画についても、受付後、再度、アプローチから見た外部の既存樹木の緑地帯を見ながら、外部アプローチレベルより高い待合に入る事で、一般的には1.5mの高低差は不利になるところを、このレベル差を生かした空間構成をしている事も評価できる作品である。

●安藤 春久 Haruhisa Ando

建築主 野田 貴彦
 設計者 TSCアーキテクト/田中 義彰
 施工者 丸中建設株式会社
 概要 主要用途 歯科診療所
 構造 木造
 階数 地上1階
 敷地面積 763.72㎡
 建築面積 270.70㎡
 延床面積 262.97㎡



1,2,3 photo/ToLoLo studio (2022)

02

03

豊田地域医療センター

豊田市西山町

とよちいきりょうせんたー



建築主 豊田市
 設計者 株式会社日建設計
 施工者 鴻池・太啓建設共同企業体
 概要 主要用途 病院
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
 一部 鉄筋コンクリート造、鉄骨造
 階数 地上7階・塔屋1階
 敷地面積 45,213.18㎡
 建築面積 (新築)4,728.52㎡
 (合計)10,181.89㎡
 延床面積 (新築)16,677.22㎡
 (合計)30,508.90㎡

豊田地域医療センターは、豊田市街地北側の小高い丘の上にあり、西に接道している。道路近くにあった北棟・中棟を解体撤去、高木の植えられた駐車場とし、その先の東側に新棟を建設。まだ新しい既存の南棟、西棟は新棟のデザインに合わせて改修を行っている。500歩さんぽみちと名付けられたリハビリ遊歩道は地域に自生している樹種が植えられ、西の道路から、病院エントランス、各棟をつなぎ、地域の人々にも開放され自由に散策できる。現地に足を運ぶと、道路際から続くさんぽみちの雑木、駐車場に植えられた高木、新棟2階のリハビリテラスやその上のバルコニーの緑が、重層的につながる。かつてこの

地にあった緑による地域の庭が、地域と医療をつなぐコミュニケーションツールとなっている。新棟の水平基調で柔らかい曲面をもつ白いバルコニーは、近づくにつれ雲を感じさせる。小高い丘の青空を背景に、白い雲と緑が訪れる人々に清々しい印象を与えるにちがいない。

● 森 哲 哉 Tetsuya Mori



1,2,3 photo/株式会社エスエス 相羽光徳(2022)

笠覆寺(笠寺観音)

名古屋市南区笠寺町

りゅうふくじ(かさでらかんのん)



笠覆寺は旧東海道に面した古刹であり、笠寺観音として今も多くの人々に親しまれている。本計画は寺院の有する豊かな歴史性を継承しつつ、境内の全面的な再整備を図ったものである。審査において評価されたポイントは境内のバリアフリー化と新旧建物のデザイン的な調和の2点であった。江戸時代に創建された本堂(市指定文化財)廻りの参拝経路が特徴的である。象徴性の高い2つのスロープを昇降動線としつつ、床高さを調整して境内・本堂・増築部の護摩堂を段差なく接続している。関連法制やディティールがよく解かれており、新旧の建物を繋ぐ参拝動線に戸惑うことはない。境内全体のランドスケープ、ならびに

新旧の建造物との調和も自然である。点在する大小の歴史的な建造物を生かしつつ、新築となる現代的な建築は伽藍の一部として馴染んでいた。定期市である六の市の開催時に訪れてみると、境内に出店が立ち並び、境内のいろいろな場所に心地よい居場所ができていた。ランドスケープの整理が成功しているのであろう、境内から明るさを感じた。手押し車やベビーカーを伴いつつ本堂に参拝する人々、それぞれ気ままにくつろぐ人々、そうした人々の振る舞いが計画のデザイン的な成功を裏付けるようであった。

● 向口 武志 Takeshi Mukaiguchi

建築主 宗教法人笠覆寺
 設計者 零三工作室
 + 堀内建築研究所
 施工者 株式会社中村社
 概要 主要用途 寺院
 構造 鉄骨造、鉄筋コンクリート造
 (本堂など既存部分:木造)
 階数 地下1階・地上2階
 敷地面積 9,458.49㎡
 建築面積 713.02㎡
 (本堂を含む:1,267.59㎡)
 延床面積 1,154.84㎡
 (本堂を含む:1,661.05㎡)
 ※本堂部分は、建築基準法第3条による適用除外



1,2,3 photo/高橋直哉[株式会社VIG](2022)

04

05

廊下とアトリエ

安城市赤松町

ろうかとあとリエ



建築主 安藤 良輔
 設計者 葛島隆之建築設計事務所
 施工者 有限会社石川組
 東海鋼建株式会社
 Heart
 有限会社清高ガラス

概要
 主要用途 陶芸工房兼用住宅
 構造 鉄骨造
 階数 地上1階
 敷地面積 445.14㎡
 建築面積 36.13㎡
 延床面積 22.25㎡

戦後、民間企業による住宅供給が本格化し、断熱性、機密性、遮音性など、個人領域の物理的快適性の向上と比例するように、住宅は内へと閉じていった。しかし、本年の応募作品を振り返ってみると、実に多くの住宅作品が都市へと開く構えを有している。社会的背景による影響も相まって、住宅は個人の所有領域として閉じる一方、社会との関係性を築く開かれた場でもあることを再認識させられた。

廊下とアトリエは、安城市の市街化調整区域に建つ陶芸家のアトリエであり、そのような両義的矛盾をそっと引き受ける寛容な場となっている。特に「開くこと」と「閉じること」を調停するかのようには架けられた廊下は、個人

の所有領域が社会との接触をいかように回ることかという意思表示にもなっている。中部地方の郊外で散見される付属小屋に現代的解釈を加え、新たな文脈を生み出そうとする姿勢、そして与えられた用途や機能を超えて、地域社会と多様な関係を構築していくであろう未来を指し示した点が高く評価された。

人々がその場をどのように意味付けようとするのかによって、まちの在り方は大きく変わる。都市の中に在るものを結んだりほどいたりすることで生まれる「公私が流動化する状況」は、新たなまちなみ形成の兆しを感じさせる。

● 船橋 仁奈 Nina funahashi



2 photo/葛島隆之建築設計事務所(2023)



1,3 photo/葛島隆之建築設計事務所(2022)

小牧市立小牧南小学校

小牧市若草町

こまきしりつこまきみなみしょうがっこう



ステップテラスで思い思いに過ごす子どもたちの姿が、建物で堅固に挟まれつつもまちへと滲み出ているシーンは、どこかまちに活力を与えてくれているようで惹かれるものを感じた。そもそも学校建築は、単にまちに開けばいいものではなく、セキュリティとの兼ね合いを踏まえた上でのバランスが求められる建築タイプでもある。この作品には、そんな与件を巧みにコントロールしながらも、豊かなまちなみへとつながる示唆があった。

ステップテラスは、3棟構成より生まれる隙間のひとつに、図書館機能とともに棟軸を崩して配置され、内部の賑わいを外部につなげる学びの核として計画されている。まち側からテ

ラス、そしてグランドへの軸を通しながらも、子どもたちにとっては安心感のある場になっていると感じた。また体育館棟は、大きな気積が故に計画上その扱ひも難しいが、広場とセットにすることで、まちとシームレスにつながり、賑わいと交流のある風景を生み出す可能性を感じた。

テラスのネット遊具では休憩時間の度に子どもたちが飛び跳ね、開放的な体育館前広場では折々の地域行事で人びとが寄り合う。そんな学校風景が僕のまちでも垣根なく見られたら素敵だろう。

● 谷田 真 Makoto Tanida

建築主 小牧市
 設計者 株式会社久米設計中部支社
 施工者 東急・滝特定建設工事共同企業体

概要
 主要用途 学校
 構造 鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
 階数 地上4階
 敷地面積 21,694.67㎡
 建築面積 5,250.30㎡
 延床面積 11,340.73㎡



1,2,3 photo/ロココプロデュース 林広明(2023)



3

06

07